



早期高糖で12月収穫にも適する

農林20号 NiTn20 (旧系統名KF92T-519)

【栽培適地】沖縄県本島南部地域、八重山地域

農林20号(NiTn20)は、2005年(平成17年)に命名登録、同年、沖縄県の奨励品種に採用されました。早期高糖で多収、12月収穫も可能な品種です。



左:剥葉前の茎
右:剥葉し、日光にさらされた茎



左:剥葉前の芽子
右:剥葉し、日光にさらされた芽子



立毛状態

来歴組合せ ♀NiF4 × ♂NiF5

NiTn20は、九州沖縄農業研究センターさとうきび育種研究室が育成した品種です。NiF4を母本、NiF5を父本に台湾糖業研究所が交配した種子を導入し、1990年(平成2年)に実生選抜を実施して以降、茎数型の多収性と早期高糖性に注目して選抜を重ねて育成しました。

重要特性

- ・発芽、萌芽、茎伸長が良く、春植え、株出しともにNiF8、Ni9よりも多収。
- ・早期高糖で12月収穫も可能、その後の株出しも良好。
- ・既存品種の収量が少ない圃場でも多収が期待できる。

■既存品種の収量が少ない圃場(沖縄本島南部、烏尻マージ土壌)における10月植え12月収穫(上段)、12月収穫後の株出し12月収穫(下段)の特性

	原料茎数(本/a)	一茎重(g)	原料茎重(kg/a)	ブリックス(%)	繊維分(%)	甘蔗糖度(%)	可製糖量(kg/a)
NiTn20	867 [194]	951 [95]	825 [189]	19.3 [97]	11.7 [109]	14.7 [97]	112 [184]
NiF8	447	1001	437	19.9	10.7	15.2	61
NiTn20	1217 [133]	873 [119]	1060 [158]	19.9 [103]	11.6 [98]	15.1 [105]	148 [166]
NiF8	917	734	672	19.4	11.8	14.4	89

※[]内はNiF8を100とした場合の比率。

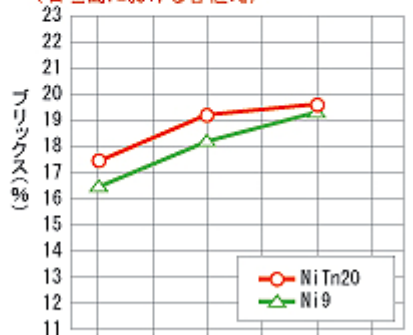
■病害抵抗性

	黒穂病	モザイク病	葉焼病	さび病	葉片赤斑病
NiTn20	強	強	中	中	—
NCo310	弱	弱	中	弱	弱
NiF8	強	強	強	強	強
Ni9	弱	中	中	やや弱	中

■その他、主要な生態的特性

	発芽性	分げつ性	萌芽性	出穂性	風折抵抗性	取葉性
NiTn20	良	中	極良	少	中	やや難
NCo310	中	中	中	多	強	難
NiF8	良	中	良	多	強	易
Ni9	中	強	良	多	強	難

■NiTn20のブリックスの上昇
(石垣島における春植え)



※NiTn20のブリックスはNiF8よりも早期から上昇。

栽培上の注意



- 12月の収穫が可能で、その後の株出しも良好です。
- 既存品種では茎の伸びが悪く収量の少ない圃場でも多収が期待できます。
- 既存品種でも茎が良く伸びる圃場では、茎が伸びすぎて倒伏しやすいので注意が必要です。

NiTn 20の形態的特性

葉長はNCo310と同程度で、NiF8、Ni9よりも短い。茎はNCo310、Ni9よりやや太く、NiF8より細い。

■葉身・葉鞘関連形質

	草型	葉身長	葉幅	葉色	葉鞘長	葉耳	毛群	ろう物質	花青素(葉鞘)
NiTn20	中葉	中	中	やや濃	中	上昇下降	無	中	無
NCo310	中葉	中	中	中	中	上昇下降	無	中	無
NiF8	立葉	中	広	濃	中	三角形	微	中	極淡紫
Ni9	中葉	長	中	中	やや長	上昇下降	無	多	無

■茎関連形質

	莖葉の形態	茎色		茎長	茎径	亀裂	ろう物質	芽子の形	芽翼	芽子突出度	芽溝
		基本色	複合色								
NiTn20	円筒	黄緑	淡紫	長	やや細	無	極多	円	中	やや凸	浅
NCo310	円筒	黄緑	褐	中	細	小	多	円	やや広	やや凸	無
NiF8	円筒	黄緑	淡紫	やや長	中	無	極多	円	中	凸	無
Ni9	糸巻	黄緑	褐	長	細	やや小	多	円	やや広	やや凸	無



- 他の品種と比べて葉長、葉鞘長ともにやや短いことが多い。
- 他の品種と比べて茎長が長く、また、節間長も長いことが多く、倒伏の程度がやや大きい。
- ごく浅い芽溝がある。
- NCo310、NiF8、Ni9と比較して、茎の髓孔がやや大きい。